

# 松浦のくんち

10月から11月にかけて、無病息災と地域の発展・繁栄を願って、各地でくんち行事（各神社の秋の例大祭）が行われました（取材できたもののみを掲載）。



## 御厨

### 蛇踊りを披露

10月17日 姫神社

無病息災と豊漁・豊作を願う神事後、地元住民がご神体の「お旅所」までの約2<sup>キロ</sup>を笛や太鼓を鳴らしながらゆっくりと練り歩きました。

また、御厨蛇踊り保存会による伝統芸能の蛇踊りが、青山荘を皮切りに同町内各所で披露され、集まった住民から大きな拍手が起っていました。

### 飾りみこしの演舞

10月15日 今福神社

神事後に地区の住民が、ご神体の「お旅所」までの約2<sup>キロ</sup>を笛や太鼓を鳴らしゆっくりと練り歩きました。

今福港近くの広場では、平戸神楽や獅子舞などが披露され、地域の若者たちでつくる「今福常若隊<sup>とこわかたい</sup>」による飾りみこしの演舞では、担ぎ手約20人が「和一処（わーいっしょ）」の掛け声で飾りみこしを空に向かって放り投げると、集まった住民から大きな拍手が起っていました。



## 今福

### 奉納相撲大会

10月25日 今山神社

浦安の舞や肥前福島玄蕃太鼓の奉納、奉納相撲大会などが行われました。

奉納相撲大会は、福島町相撲実行委員会主催で、同神社境内で開催されました。今大会には、市内外から園児・小学生のわんぱく力士約50人、中学生・一般の力士約30人が参加。小雨が降る肌寒い天気の中、個人・団体戦や学校対抗戦、抜き相撲で熱戦を繰り広げました。



## 福島

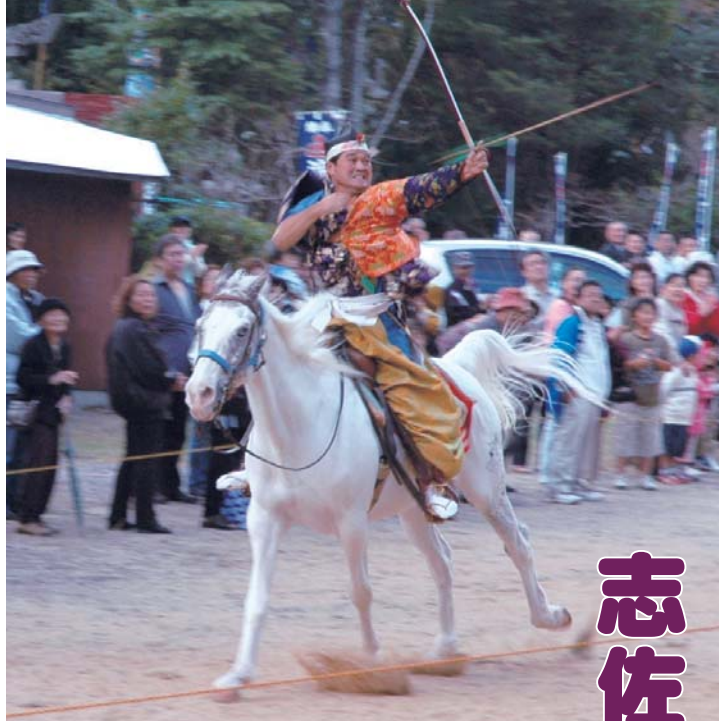


## 勇壮、漁船パレード

11月5日 羽黒神社

無病息災と豊作、豊漁を願う伝統行事で、太鼓や笛の音に合わせ、みこしを担いだ大人たちが隊列をつくって、町中を練り歩きました。

みこしは星鹿港から漁船に積み込まれ、大漁旗で飾り立てられた漁船約30隻が隊列を組み、星鹿港内を3周する勇壮な漁船パレードが行われました。



志佐

## 流鏝馬を披露

10月26日 淀姫神社

県内で唯一伝わる「流鏝馬」は、当たった矢の本数などで来年の豊凶を占い、馬が巻き起こす風にあたると無病息災、外れた矢を拾うと良縁に恵まれるといわれる、900年以上の歴史があるものです。

射手は、福田邦光さん（調川・上平尾、61）と中村嘉宏さん（平戸市、40）。烏帽子と狩衣姿で、馬上から3カ所の的を目掛けて18本の矢を放ち、15本命中。中川明宏宮司は「来年も豊作が期待できるでしょう」と話していました。

星鹿



## 鷹島町で約1800万年前の化石発見

市教育委員会は11月13日、鷹島町の海岸で約1800万年前の大型哺乳類の化石を発見したと発表しました。

約10年前に当時の熊本大学の大学院生だった鶴飼宏明さん（天草市立御所浦白亜紀資料館学芸員）が同海岸で化石の一部が露出していたところを発見。今年4月9日、鶴飼さんと早稲田大学の平山廉教授、佐賀県立宇宙科学館職員など5人が鷹島町の地質調査時に当該化石の発見場所を訪れ、試掘を行い、大型哺乳類の化石であることが判明しました。

県や関係機関と協議の末、福井県立恐竜博物館の宮田和周主任研究員や鹿児島大学大学院生など9人に協力いただき、11月11日から16日にかけて発掘調査を行いました。



発掘調査の様子

4月上旬の試掘調査時に発見された化石は、大型哺乳類の仙椎（腰の骨）、腸骨（骨盤）など。今回の調査でも胸骨の一部も発見されています。埋まっていた地層や骨の大きさ・形状などから体長約3メートルのカバのような半水生の炭獣類（絶滅した偶蹄類）のものである可能性があり、周辺の地層の年代測定から約1800万年前のものと推定されています。

宮田主任研究員は「頭部を含む骨格が発見できる見込みもあります。年代・大きさなどから新種である可能性も秘めており、中国大陸と陸続きであった時代の環境が解明され、当時の環境で周辺に生息していた生き物に関する貴重な資料となるでしょう」と話していました。



今回発見された胸骨の化石